

■特別セッション

雪氷リモートセンシング研究会 Cryosphere Remote Sensing

1) 日時・場所：

11月21日（火）B会場 10：00～11：30（90分）

2) コンビーナー・司会：

長 幸平（東海大）

3) 概要：

地球温暖化が懸念される中、極域の海氷面積の減少傾向が指摘されています。衛星リモートセンシングは、全球の雪氷圏観測を可能とする観測手段としてその重要性が増しています。今回、本学会の雪氷リモートセンシング研究会で特別セッションを企画しました。雪氷リモートセンシングの最新動向について白熱した議論が展開できればと思っています。会員の方々のご参加をお待ちしています。

4) 発表内容※：

1. 若林 裕之(日大)、長 幸平（東海大）：「Cバンド SAR によるウラジオストック沖定着氷観測」(S-1)
2. 中山雅茂(北教大)、直木和弘（東海大）、谷川朋範（気象研）、長 幸平（東海大）：「海水タンクによる海氷の成長速度を制御したマイクロ波放射特性の観測実験」(S-2)
3. 館山 一孝（北見工大）：「融解期を含んだ AMSR2 による海氷厚推定」
4. 長 幸平、直木和弘（東海大）：「AMSR2 海氷密接度プロダクト用 Weather Filter の開発」(S-3)
5. 谷川朋範，増田一彦，石元裕史（気象研）：「大気-積雪-海氷系の偏光放射伝達モデルの開発と雪氷面上大気エアロゾル観測の可能性」(S-4)
6. 総合討論（15分）

※「S-」で始まる番号が付与されている発表については、論文集に論文要旨が掲載されています。